

◆◆「新しい川崎」メール版◆◆

—2024年7月16日第133号—

<目次>

●加齢性難聴入門講座終わる一聞こえの問題 その原因を知り運動の方向を学んだ3日間

■台風19号多摩川水害川崎訴訟が新たな段階に

▲お知らせコーナー

① 7/20 九条の会 音楽と講演のつどい

② 7/20 ゆめシネマ「サイレント・フォールアウト」

★編集後記

●加齢性難聴入門講座終わる一聞こえの問題 その原因を知り運動の方向を学んだ3日間

川崎市社保協と年金者組合川崎支部協では、「難聴を知ろう」というテーマで、加齢性難聴 入門講座を5月18日、6月8日、13日に「ゆめホール」で開催しました。

この貴重な3日間の学びを通して、全国で広がる補聴器購入助成制度 この川崎でも！の思いを強く持つことができました。

<1回目講座 難聴を知ろう>

加齢性難聴は、耳の動脈硬化が原因とされ、高齢化すると多くの人が難聴になります。

全国で1400万人、川崎市では75歳以上の難聴者は6万3000人と推定されています。

難聴になると外出を控え、人との交流も減ってきます。

こうしたコミュニケーション能力の低下が認知症やうつ病の原因になるとも指摘されています。

最近の医学的な研究では、早期に補聴器を使うことによって、認知症の発症率は減少することを多くの医学者が明らかにしています。

そこで、川崎市社保協、年金者組合、医療生協が実行委員会を作り1日目に「難聴を知ろう」というテーマで、加齢性難聴入門講座を開催しました。

講師は、横須賀共済病院の言語聴覚士の杉原恵子さん。

この内容については、メルマガ新しい川崎5月22日、12号に記載してあります。

<2 回目講座 川崎市議会での審議の様子と、制度実現の方向>

2日目の講座の報告者は、川崎市の健康福祉委員会担当の渡辺学議員です。

2021年に補聴器購入助成制度の創設に向けて3400筆の署名と共に請願書を提出した経験を踏まえ、年金者組合が提出していた陳情と合わせて川崎市議会の健康福祉委員会で2度の審議が行われました。

それぞれの党の委員も真剣な論議を交わしていましたが、継続審議となり、2023年の3月に廃案となってしまいました。

渡辺学議員は共産党議員団として、制度創設に向けての大きな力は市民の声であり、運動への期待を語りました。

私たちが改めて署名に取り組んでいこうと思いました。

全国では、286自治体で購入時の助成制度が実現しています(5月末時点)。

地道な取り組みが必要とは思いますが、この川崎市で運動を進めていくため、川崎市の到達を知り補聴器購入助成制度の創設に向けての学習となりました。

<3 回目講座 県内と全国に広がる補聴器助成制度の運動>

3日目は、年金者組合県本部の伍淑子副会長と八木義長常任委員が講師を行い、去年から今年にかけて急速に進む補聴器助成制度創設の実現についての全国の運動や県内の取り組みについて詳しく報告。あらためて、高齢者に対するの施策としての重要性を語りました。

また実際に補聴器を付けている方のお話も聞くことができました。

これまでは、川崎市社保協と年金者組合、川崎医療生協の代表で実行委員会を組んでの取り組みでした。

3回連続講座で学んだことを基本に、感想や学んだことを出し合い、今後の運動の方向として「会」を作り、会長・事務局長を決めて取り組んでいこうと考えています。

光野(社保協)

■台風19号多摩川水害川崎訴訟が新たな段階に

2019年10月12日に川崎市内にも多くの被害をもたらした台風19号(令和元年東日本台風)。

その中でも市内の5つの樋管ゲート(宇奈根、二子、諏訪、宮内、山王)近辺2000世帯の被害は川崎市がゲートを閉めなかったことにより多摩川から内地に逆流してきたことが原因であることが川崎市自ら立ち上げた検証委員会でも明らかになっています。

それにも関わらず、「総合的判断」とか「想定外のできごと」としてその責任を認めようとしなかったのです。

2020年、私たち被災者の100名近くが川崎市を相手取って裁判を開始しました。

10回の口頭弁論の中で、その都度、被災者から被害の実態について法廷で被災写真を含めて法廷で意見陳述を行ない、川崎市の責任についても具体的に追及してきました。

<7月11日の口頭弁論では>

先日、7月11日に11回めの口頭弁論が横浜地裁川崎支部で行われました。

今回から、原告に対する本人尋問が行われました。

本来ならば100人近くの原告全員に行われるべきですが、時間の関係もあり似たようなケースをまとめ裁判所の方から10名が指名され、今回そのうちの2名に対して行われました。

本人尋問は原告に対して原告側、被告側弁護士、そして最後に裁判長から訴訟内容について問いただす場になります。

団長である川崎さんからは、家の地下の部屋は完全に水没し、しばらく水も抜けず、その後も泥だらけで手をつけるにも呆然としていたことなど、当時を思い出すと涙目で訴えました。

街中に出てみるとうず高く積まれた泥や、使えなくなった家具などの山を見て、相手のことを考えると写真もとれなかった発言も印象的でした。

諏訪のIさんからも、マンションの1階に住んでおられましたが地面より60cm近くの下が床部分になっていることもあり背丈くらいの水が窓と玄関から入り「部屋の中は洗濯機でかき回された状態になっていた」という表現をされていました。

夫婦でお住まいですが、そのときはたまたま自宅にいなかったこともあり難を逃れましたが、1年以上もどれずに別のところで過ごすことになったそうです。

被告側の弁護士は、両方の原告に対して、住んでいる場所を確認し、あたかも「多摩川からそんなに近くに住んでいたのだから仕方ない」という印象を与えようとする質問でした。

先日の口頭弁論には40名もの傍聴参加がありました。

今後の予定もはっきりしています。ぜひ、多くの方の傍聴をよろしく申し上げます。

なお、公正な裁判を求める署名を引き続き行っています。

現在4000名を超える署名をいただいておりますが、ネット署名も始めました。

万単位の署名を目指して取り組んでおりますのでよろしくご協力お願いします。

[オンライン署名](#)

<今後の裁判の予定>

本人尋問 横浜地裁川崎支部1号法廷

- ・9月5日(木)事前集会 14時 開廷 14時半
- ・11月14日(木)事前集会 13時半 開廷 14時
- ・2025年1月30日(木)事前集会 13時半 開廷 14時

*事前集会は裁判所前で行います。

*それぞれ原告への本人尋問になります。(計10名です)

船津了(台風19号多摩川水害を考える川崎の会事務局)

★お知らせコーナー

③ 九条の会 音楽と講演のつどい

7/20(土)14:00~16:30

会場 川崎市相互自治会館ホール

参加費無料

音楽 コカリナ演奏

講演「今川崎の学校は～川崎の教育は大丈夫なのか」

連絡先 中島(080-1027-3563)

[*詳しくはこちら](#)

④ ゆめシネマ「サイレント・フォールアウト」

7/20(土)①9時 ②12時 ③15時 ④18時

@かわさきゆめホール

予約・前売:1000円

当日:1500円

障がい者:500円

学生以下:200円

監督:伊東英朗

76分

[詳しくはこちら](#)

[公式サイト](#)

★編集後記

「虎に翼」寅子が判事補から判事へ。新潟地家裁に送り出す男達の温かさに胸が熱くなります。翻って都知事選、蓮舫バッシングに終始したマスメディアの姿に憤りを感じます。

蓮舫バッシングの異常さを指摘したのは共産党の小池書記局長。そういえば、小池書記長がかつて田村智子さんに謝ったことがありました。

「雨垂れ石をも穿つ」を引用しながら「君はよくやった」と寅子の仕事を止めようとした穂高先生に寅子は猛然と怒りをぶつけます。

その思いに気が付いた穂高先生は全身全霊で謝罪します。

無意識のうちに積み上げられた男性の心の中の女性に対する差別意識に気づくには、とことん民主的な感性と知性が必要です。

理不尽に立ち向かう女性の姿は美しい。それを「怖い」というのは、理不尽から目を背けようとする人たちによる醜い抵抗でしょう。

ドイツの画家ケーテ・コルビッツは、第1次世界大戦で息子を失い、第2次世界大戦で孫を失います。

息子を戦地に送り出した過ちに気づいたケーテは、二度と子どもを戦地に送り出してはならないという思いを彫刻や絵画に込め、非戦への思いを綴り、戦争を進める勢力と闘ったのです。

京浜協同劇団の和田庸子もまた怒れる女性でした。

和田庸子が紡いだケーテ・コルビッツの生涯の物語「黒と白のピエタ」を今年上演します。

上演資金を集めるためクラウドファンディングに挑戦中。

募集期間はあと6日でラストスパートです。ぜひご協力を。(Y)

[クラウドファンディング](#)

[劇団ホームページ](#)

☆☆**チェンジかわさき!**☆☆

川崎民主市政をつくる会

〒211-0011 中原区下沼部 1880

お問い合わせ

mailmag@newkawasaki.jp

公式ホームページ

<https://newkawasaki.jp>

☆☆チェンジかわさき!☆☆

配信を希望されない方は以下をクリックしてください。

自動的に登録を解除します。

https://my922p.com/User/cancel_mail/fMwwpqj4/4unlmd09yVIC?mail=talosxxx%40gmail.com

誤って登録解除した場合、以下までご連絡ください。

mailmag@newkawasaki.jp